The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「世界の食糧事情を知る」
Author(s)	目時, しおり
Citation	目で見るWHO. 2017, 62, p. 5-7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86644
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

●jaih-s との共催企画フォーラム　ワークショップ　.

「世界の食糧事情を知る」

jaih-s11 期後半運営委員　目時 しおり

（日本赤十字看護大学看護学科）

ワークショップは、忍足謙朗先生の「食糧の入手困難による健康問題」、石川みどり先生の「健康問題と食事とのかかわりと国際協力」に繋がるものであり、先生方の講演内容と共通した話題、貧困と途上国における生活習慣病を取り上げた。

参加者を 6 人毎の 5 班に分け、スタッフの目時・加藤・西村・山田・竹内をリーダーとして進行した。

進行に際しては、貧困国のバングラデシュとウガンダの二か国の食にまつわる写真を用いた。

バングラデシュのワークショップでは、図 1、図 2 の 2 枚の写真を用いた。

写真を見ながらその奥に潜む文化や社会の問題を考え、その問題の原因を考察した。写真から得ることのできる表面的なものだけでなく、ジェンダー

の問題、食の加工法、宗教などの問題についても考えることができた。

図１　女性が家の中で料理を作っている様子

図２　男性が屋外で魚を販売している様子

これは、ワークショップ後に参加者自身がアフリカやアジアにある途上国や世界の問題を自発的に学び、行動していくことを企図し、また、身近にある写真を使うことで、今後も継続的に世界の問題へ関心を向けることができると考えたものである。

図３　１つのグループが作成したシート

(バングラデシュのワークショップで用いた２つの写真を中心に置き、付箋に写真への印象を記載して貼った)

ワークショップを行った後に、共催団体の youth ending hunger ※ の泉谷瑠夏氏により、実際に現地で活動されている hunger free world の方が見てきた現状を講演いただいた。

バングラデシュでは、冷蔵庫などの保存する方法がなく、食べ物が腐らないようにするために、油で揚げたスナックのような食べ物が多いということ。また、男性が外で働き、女性は家を守るという文化が根強く残っており、男女格差は今もなお色濃く残っているとのこと。食の問題は気候、宗教、文化などが大きく影響しているということなどを知ることができた。

その後のウガンダのワークショップでは、図４、図５の２枚の写真を用いた。

図４　市場の様子

図５　ウガンダの日常的な食事

問題解決のワークショップでは、まずウガンダの基本情報として、面積、地理、人口、人口分布、肥満率等が掲載された資料を配布した。その資料を基に、ウガンダで起こっている高血圧やジェンダー、貧困などの問題が抽出され、それを基に、クリエイティブなアプローチ方法を考えることができた。

その後、5 つのうち 2 つのグループが代表して発表を行った。

高血圧の女性を対象に食生活を見直すためのワークショップを開催するとか、ウガンダの食材で作ることできるバランスの良い食事を考え提案するとかなどの案が出て活発的なワークショップとなった。

本ワークショップを通して、参加者は、写真を見るだけでは得ることのできない、社会・文化的な問題にも目を向ける視点を得ることができたと思う。そして、このワークショップの参加者自身が、今後世界の問題に対して、より多くの視点を持って、問題に取り組むことができるようになることを期待したい。

図６　ウガンダのグループ発表の様子

※youth ending hunger

「飢餓が若者の命を終わらせるのではなく、若者が飢餓を終わらせよう」 をスローガンに、アジア、アフリカの世界 5 ヵ国で 15～24 歳の若者が中心となって活動している NGO。具体的には、飢餓や貧困と若者に関する問題についての啓発活動や、若者を対象とした開発事業を実施している。日本では高校生から大学生を中心に、同世代の若者を巻き込み、飢餓や貧困の終わりを訴える啓発活動や、開発途上国の支部の事業への財政的支援を行っている。